

江戸時代後期の学問と文化

国学と蘭学

18世紀半ば頃から、**昔の学問**と**最新の学問**の研究がそれぞれ進む。

国学

昔の学問 … 『古事記』や『万葉集』、『源氏物語』などの日本の古典を研究する学問を**国学**という。

仏教や儒教にとらわれない、日本にもとからある思想を明らかにしようとした。

もとおりのりなが
本居宣長は『古事記』を研究して『古事記伝』を書いた。

↓
“日本が世界の中でも特別な存在である”という国学の主張が天皇を尊ぶ思想と結びつく。

↓
やがて、天皇を尊び外国を排除する**尊王**じょうい
の運動が生まれる。

幕府を批判する思想



国学を大成した。
『古事記伝』をあらわした。

↑ 本居宣長